

図書館だより

2013年12月18日
冬休み直前号



22日で2学期が終了します。2014年に貸し出された冊数は5057冊でした。一人あたり約8.7冊です。100冊以上借りた人は7人、50冊以上借りた人は15人、25冊以上借りた人は36人いました。期間中一番多くの本を借りたのは3年生のT.Kさんの154冊です。

(統計期間2014年4月7日~12月17日)

来年の2月末にはたくさん本を読んだ人と、一番本を読んだクラスへ表彰を行います。たくさん読むのは無理でも、一週間に一冊本を借りる、この作家の本を読破するなど、自分自身の目標を立てて読書をしてみましょう。

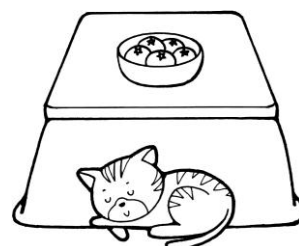


冬休みの特別貸出はじめました

12月22日(2学期終業式)まで冬休みのための特別貸出を行っています。長編小説や、普段読まないジャンルの本に挑戦してみませんか？

◎貸出冊数：一人5冊まで

◎返却日：2015年1月8日(3学期始業式)



※借りた本は汚す・壊す・紛失する、ということが無いように大切に扱い、必ず返却日に返しましょう。



今年借りた本は

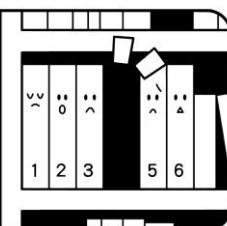
今年の内にも返却してください！！

現在約90冊の本が返却日に返却されていません。心当りの人は速やかに返却してください。

また、教室やワークスペースに誰が借りたのかわからない本があった場合、見つけた人が返却をお願いします。廊下にある“返却ボックス”を活用してください。

返し忘れて
いる本が家
ありませんか？

4
あ
い
う



新着図書案内

学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に 現役合格した話

(坪田信貴、KADOKAWA)

学校では人間のクズと呼ばれ、高校2年生にして学力は小学4年生レベルの金髪ギャル・さやかちゃんが、塾講師である著者から心理学を駆使した指導を受け、名門・慶應義塾大学に合格するまでを追った実話。一人の教師との出会いが、ひとつの家族の運命を変えた。

初恋は坂道の先へ (藤石波矢、メディアファクトリー)

一冊の本が届いたある夏の日、恋人の品子が疾走した。本の贈り主は品子が以前話していた忘れられない初恋相手なのか？ 場面は変わり、中学2年生のしなこは敬愛する小説家、日向の家に通っていた。物語は、大人と中学生のパートが交互に進んでいく。品子はなぜ失踪したのか？ふたつの物語は終盤でどんな結末を見せるのか。

おかんメール (「おかんメール」製作委員会、扶桑社)

「あと5分位どつくよ」「めえるしてみたけど。と。うた。ろう。」などなど、携帯電話を使い慣れないお母さんからの誤字脱字メールをはじめ、面白い書き置きメモや不思議な言動などを紹介。「お母さん」という生き物はやっぱり最強！と思える一冊です。

仕事を選ぶ 先輩が語る働く現場64

(朝日中学生ウィークリー編集部、朝日学生新聞社)

社会の第一線で活躍する大人たち。彼らは学生時代になにを考え、どう行動していたのか。外交官、医師、客室乗務員、声優、パティシエなど、あこがれの仕事に就いている64人を徹底取材！

キッズペディア 科学館 (小学館)

「なぜ空や海は青いの？」「なぜ鏡は左右逆に映るの？」「なぜ天気は変わるの？」「なぜオスとメスがいるの？」などといった日常生活で抱く疑問について、さまざまな現象には決まったルールがあり、それは小中学校の理科で習うことを軸にして考えれば理解できるということを、解説ではっきり示します。